

2025年6月の振り返り&今後のポイント

YMfg | ワイエムアセットマネジメント

商号等	ワイエムアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第44号
加入協会	一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

- 本資料は、情報提供を目的としてワイエムアセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を推奨・勧誘するものではありません。
- 本資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。
- 本資料に掲載されている当社の意見ならびに予測は資料作成時点のものであり、予告なしに変更することがあります。また、本資料は当社が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当社が保証するものではありません。本資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを示唆あるいは保証するものではありません。
- 本資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 本資料の内容に関する一切の権利は当社にあります。本資料を投資の目的に使用したり、承認なく複製又は第三者への開示等を行うことを厳に禁じます。

2025年6月の振り返り

スタグフレーション懸念後退とAI市場の成長期待でリスク選好強まる

市場	変動要因 等
債券（金利）	<u>米国債券は上昇（金利は低下）</u> 米国のCPI（消費者物価指数）が予想を下回ったことや、FRB（米連邦準備制度理事会）高官のハト派的な発言を受け、利下げ再開への期待が高まり、金利は低下しました。 <u>国内債券は上昇（金利は低下）</u> 日銀が国債買入れの減額ペースを緩やかにしたことや、財務省が2025年度の超長期国債の発行額を減額したことが好感され、金利は低下しました。
株式	<u>米国株式市場は上昇</u> トランプ政権による関税政策への楽観的な見方が広がったことに加え、AI（人工知能）分野の成長期待やFRBの利下げ観測が相場を支えました。さらに、イスラエルとイランの停戦合意による中東情勢の緊張緩和や、防衛・インフラ分野への財政拡大期待も相場の上昇要因となりました。 <u>国内株式市場は上昇</u> 日銀による追加利上げ観測の後退や、国債需給の改善期待を背景に長期金利が低下し、株式市場は堅調に推移しました。
リート	<u>国内リートは上昇</u> 当面の追加利上げ観測が後退し、長期金利が低下したことから、上昇しました。
為替	<u>為替相場はドル安進行</u> 中東情勢の緊張緩和により、有事のドル買いが一服したことに加え、トランプ大統領によるFRBへの利下げ圧力を受け、FRBの独立性に対する懸念が広がったことで、ドルは主要通貨に対して下落しました。一方、日銀の利上げ観測の後退を受け円も売られ、ドル円相場は概ね横ばいで推移しました。

今後のポイント

◎米雇用統計・CPI・FRBの政策判断が最大の鍵

- 現在、市場の最大の関心事は、米国の雇用情勢とインフレ動向の組み合わせが、FRBの政策判断にどう影響するかという点にあります。以下は想定される組み合わせ、政策対応、市場の反応を示したものです。

	雇用統計	CPI	想定される政策対応	予想される市場の反応
(Ⅰ)	堅調	上昇	利下げ期待後退	金利上昇・株価下落
(Ⅱ)	軟調	上昇	政策不確実性高まる	ボラティリティ上昇 金利上昇・株価下落
(Ⅲ)	軟調	落ち着き	利下げ観測高まる	金利低下・株価上昇
(Ⅳ)	堅調	落ち着き	政策据え置き	金利上昇・株価横這い

◎日米の財政リスクが再注目される可能性

- 米国では「1つの大きく美しい法案（OBBB）」と呼ばれる減税法案が成立し、今後10年間で約3.4兆ドル規模の財政赤字が拡大する見通しです。この法案は、減税による経済刺激を通じて、トランプ関税の経済的影響を緩和する狙いがあるとみられます。ただし一方で、財政悪化への懸念から、米国金利の上昇・ドル安・株安といったリスクも意識されつつあります。
- 日本においては、7月20日に予定されている参議院選挙で与党が大敗した場合、野党からの財政拡大圧力が強まる可能性があり、今後の財政運営に不透明感が生じる懸念もあります。

◎投資家がリスクを取りやすい良好な環境が継続するかどうか

- 現在の金融市場は、潤沢な流動性と落ち着いた信用リスク環境に支えられ、ボラティリティ（価格変動）の低下も相まって、リスクを取りやすい環境が続いています。こうした環境が維持される限り、仮に一時的な相場の不安定化が起きたとしても、比較的早期に回復する可能性があります。

今後のポイント（まとめ）

■ 「6月の期待は正しい」との答えが得られれば、良好な投資環境は変わらず、リスク選好継続の可能性

6月相場を支えたポジティブ要因

7月に見直される可能性

① トランプ関税政策に対する楽観的見方

- ・『TACO』：Trump Always Chickens Out
「トランプは結局引き下がる」という期待感

② AI市場成長の再評価

- ・「生成AI普及の次なる『黄金の波』に突入しており、エヌビディアは予想以上に力強い需要の新たな拡大局面で先頭に立っている」
(米ループ・キャピタルのアナリスト)

③ FRBの利下げ再開への期待

- ・米雇用の減速傾向
- ・トランプ関税のインフレ圧力は限定的
- ・FRB一部メンバーの7月利下げ支持

④ 中東情勢の緊張緩和期待

⑤ 防衛・インフラ領域の財政拡張期待

① 関税交渉の不透明性

- ・正式合意はイギリス、ベトナムのみ
- ・中国との合意内容は開示されず(7/4現在)
- ・交渉の長期化と関税内容の不確実性
→ 消費・設備投資抑制要因

② AI期待の正当性が問われる決算シーズン

- ・利益成長の持続性が焦点
→ 株価のバリュエーション再評価
- ・設備投資の勢いは持続するか

③ FRBの利下げ観測の後退リスク

- ・関税の影響がインフレ指標に顕在化する可能性も

④ 中東の緊張緩和は一時的か

- ・イスラエル・ハマス紛争の事例を踏まえると長期的には疑問も

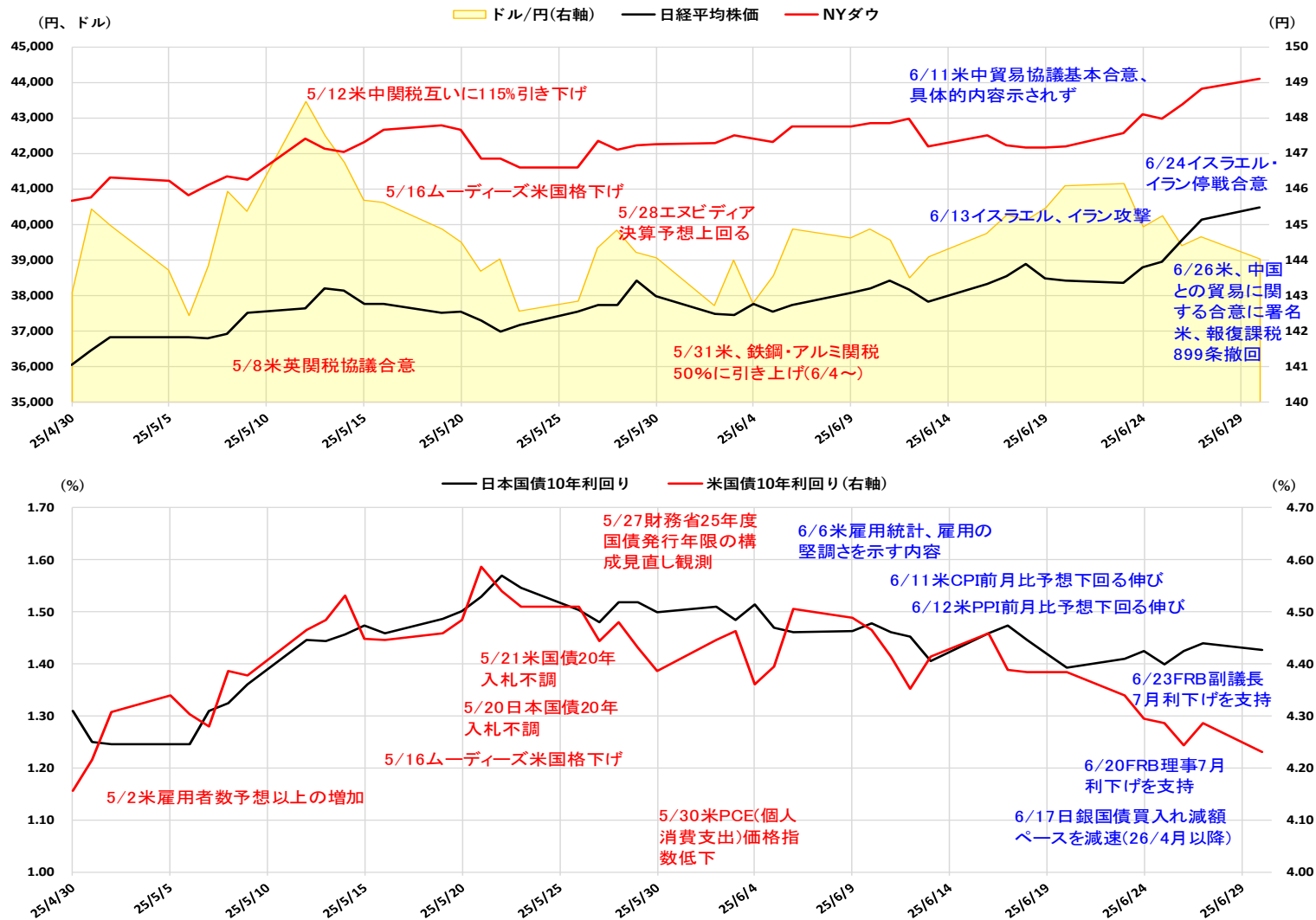
⑤ 財政拡張は新鮮味薄れ、むしろ長期金利に上昇圧力

- ・EUの欧州再軍備計画(3月)から4ヶ月経過
→ 相場に織り込み済みとの見方

主な相場変動要因

主な相場変動要因

(2025/4/30～ 2025/6/30)



(出所) LSEGよりワイエムアセットマネジメント作成

※上記は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。